

## 進行期肝細胞癌患者が抱える自覚症状と「診断時からの緩和ケア」の実態

### ◆研究の目的と概要◆

当院では、進行期の肝細胞がん患者さんが診断時に抱える身体的・精神的自覚症状、多職種チーム介入に対する患者さんの希望と実際の介入状況、治療開始後の自覚症状の経時的変化を調べています。本研究では、肝細胞がん患者さんに対して具体的にどのようなサポートが必要とされているかを明らかにすることを目指し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

### ◆対象となる患者さん◆

2015年9月から、2022年9月までの間に、当院で肝細胞がんに対する抗がん剤治療（全身化学療法、肝動注化学療法のいずれか）を初めて受けられた20歳以上（治療開始時点で）の患者さん

### ◆研究に使用される情報◆

治療開始時点での患者さんの情報：性別、年齢、身長、体重、飲酒歴、喫煙歴、過去の治療歴、慢性肝炎/肝硬変の成因、肝機能、肝細胞がんの病期、全身状態、抗がん剤治療の内容

「生活のしやすさ質問票」の回答結果：入院中または通院時に記入していただいた「生活のしやすさ質問票」の回答結果（抗がん剤治療開始から2年間分）

治療内容：抗がん剤の種類、治療期間、副作用の発現状況とそれに対する対応、後治療の有無と内容、緩和ケア科やがん看護外来の介入の有無と介入開始時期

生存期間に関わる情報：最終診察日、死亡された方は死亡日と死因

### ◆研究方法◆

本研究は電子カルテから得られる情報を利用します。

- 
- \* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
  - \* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

消化器内科 研究責任者 上野 真行

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法  
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明